

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100193		
法人名	株式会社 松鶴		
事業所名(ユニット名)	松鶴松江壱番館 (グループホーム)		
所在地	和歌山県和歌山市松江東二丁目4-32		
自己評価作成日	平成26年11月5日	評価結果市町村受理日	平成27年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp">http://www.kai.gokensaku.jp</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成26年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者さんには住み慣れた地域で、周囲の住宅とも違和感のない館で、窓からながめても玄関の外へ出て、民家の中にあり、自分の家で生活しているように過ごして頂いています。利用者さんと職員は家族のように接し合い、職員は利用者さんに心から信頼して頂けるよう努めています。又地域との交流も可能な限り参加させてもらい、大事にして頂いています。職員も積極的に研修会等に参加し、学んだことを事業所内で勉強会を実施したりして、スキルアップをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所には重度化した利用者も多いと見受けられるが、職員は利用者に寄り添い、明るく元気に利用者に接している。利用者・職員は地域の様々な行事に参加したり、事業所で行われる夏祭りには地域の人々が訪れ交流している。かかりつけ医が訪れ利用者1人に月2回の診療を受けるなど健康管理や医療面で本人・家族が安心できる体制がとられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着し、その人の立場に立って、こころのこもった介護に努め、明るく楽しく元気に接するという理念を共有して実践につなげている。	地域に密着し利用者に明るく楽しく元気に家族のように接し、心のコもった介護を行いますという趣旨を理念とし玄関や休憩室に掲げている。職員は理念を念頭に置いて日々の業務に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神社の祭事や、夏祭り、ふれあい会、防災訓練等の参加、又幼稚園児との交流会を持ったりして、地域とつながり、生活している。	利用者は近くの神社で行われる夏と秋の行事などに参加したり、地域の高齢者のふれあい会に参加し楽しんでいる。また隣の老人保健施設で行われる夏祭りに参加したり、事業所の夏祭りに地域の人々が訪れて交流している。なお、近くの幼稚園児が訪れて踊りや歌を聞いたり手遊びをして利用者は楽しんでいる。また、近所の農家の人々にも農産物をもらったりして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々との挨拶や会話、散歩の様子を見て頂くことにより、理解や認識が得られるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を開催し、利用状況や行事報告をし、意見を頂いている。また地域の活動や行事にお誘い頂き、参加させて頂いたり、してサービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月に一度開催しており、利用者の登録状況や行事の実施状況などを報告し、参加者から意見を出してもらったり地域の行事などの情報提供を受け、その行事に参加したりしている。また、席上出された意見はサービスの向上の参考としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者や地域包括センターと日頃から連絡を密に取り、協力関係を築いている。	市の担当者には介護認定調査に来たときに対応するなど協力関係をもつように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及びすべての職員が身体拘束をしないケアを実践し、具体的な行為を把握できるよう、勉強会、職員会議などの折に再認識出来るよう取り組んでいる。	代表者や職員は身体的拘束の行為について勉強会などで学び把握しており、利用者を見守ることで身体拘束をしないケアを行っている。玄関の鍵は日中は掛けずに特に外へ出る可能性のある利用者には行動を注意深く見守るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	積極的に研修会に参加し、学んだ知識を事業所内で勉強会を持ったりして、管理者、職員共に虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会に参加して知識を深め必要に応じて活用し、支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に解りやすい言葉で説明するとともに、その説明を相手に確認しながら進めていくように心がけている。疑問、質問には納得して頂くまで丁寧に説明するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常時利用者や家族の意見、要望を聞きながら、また運営推進会議での家族代表者の意見、要望等、役職会議や職員会議にかけて運営に反映させている。	運営推進会議の席上や来訪時に利用者・家族の意見や要望を聞いている。家族からは利用者が楽しむ特別な食事を提供してほしいなどの要望が多いが要望や意見等があればそれに応えるような取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見の言える環境作りに努めている。「みんなの声」という意見箱を設け、直接言い難いことも書いて入れるようにして、反映させている。	毎月職員会議を行い席上職員の意見を聞く機会を設けている。また、「みんなの声」という意見箱を置き、職員は直接言いにくい事でも書いて入れることができる。職員から業務に関する意見や提案が出されれば職員会議で議論し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所に個々の持てる力を出せるよう、職員一人一人の良いところを認め、任せることで、やりがいや向上心が持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会がある度、内外の研修や勉強会に積極的に参加するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内外の研修会や行事には同業者との交流目的もあり、手伝い合い等することにより、学ぶところや気づきがあり、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とじっくり話す時間をもち困っていること、不安なこと、要望等把握し本人の安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めに家族の話を傾聴することにより、困っている事、要望等把握し、信頼して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が必要な支援なのかを見極め、必要であれば他のサービス利用も提案した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方向的に介護するのではなく、個々の有する機能、能力により、掃除や洗濯、料理、おやつ作り等共にしながら、利用者と職員が一戸の家で生活を共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来館時に必ず近況報告をし、本人と家族と職員も交えた会話から入ることにより、面会がスムーズに進み、絆が保てるよう、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望すれば一時帰宅に付き添ったり、今まで住んでいた近所の方々や親戚の方が面会に来て下さったり、行き慣れたスーパーでの買い物に送迎したりして支援している。	馴染みの人が訪ねて来たり、また行き慣れたスーパーでの買い物の送迎を職員は支援している。また家族がいないなどの事情のある人が希望すれば、一時帰宅に職員が付き添うなどの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や状態を把握し、雰囲気や環境づくりをして、会話や笑声が聞こえ、食事やおやつを誘い合う様子が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば家族の相談に応じフォローや支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を日常の会話や様子により、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族や職員の意見を検討し対応している。	職員は日常接している利用者一人ひとりの言動から利用者の希望や意向等を把握するようにしており、また職員1人につき利用者2人を担当する取り組みもなされている。意向等の把握が困難な場合は職員間で話し合ったり、なじみの暮らし方を家族に聞いて把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話から生活歴や暮らし方、これまでのサービス利用の経過等知ることにより、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の様子観察や、有する力の状態変化に注意を払いながら、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意向、職員の意見、医療関係者の意見やアイデアの反映された本人の現状に即した介護計画作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人・家族の希望を聞き、医療関係者の意見や、職員間で意見を出し合って現状に即した介護計画を作成している。介護計画は3か月に一度見直すとともに入院など利用者に大きな変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実践や結果、日々の様子や気付きや工夫は個人記録に記入し、介護計画を見直しケア会議で、職員間での情報の共有をしながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の活動や他の事業所の情報交換等により、できる範囲で、一人ひとりの要望に応えられるよう行きたい所やしたい事、食べたいものに答えられるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に地域の神社の祭りに参加したり、幼稚園児の訪問を受け交流したり、地域の高齢者のふれあい会に参加したりして楽しく暮らしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関を優先にして受診できるよう支援し、月2回のかかりつけ医の往診も受けている。	殆んどの利用者は、本人、家族の希望により事業所のかかりつけ医に受診している。事業所のかかりつけ医には利用者1人につき月2回の来診を受けている。また、受診結果は業務日誌等で職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護を受けているので、些細なことも報告することができ適切な指示が受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは、定期的に情報交換を行い、関係作りに努めている。また入院時の病状の確認や、退院後のしえんの相談等、密に連絡を取って支援に活かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、契約時に説明し、本人及び家族の意向を伺ってはいるが、その時期が近づくにつれ、段階的に医師の意見や家族の望みを聞きながら、職員共々方針を共有して支援に取り組んでいる。	重度化したときや終末期について契約時に本人・家族に説明しており、重度化したときは家族の希望を聞き、また、医師の意見を聞いてどうするかについて方針を決めるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、早期に対応できるようにしている。また職員は応急手当や初期対応の実践力を習得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署より防災訓練の指導を受け、想定を上げた避難訓練もしている。また地域の防災訓練にも参加し、協力関係にある隣接施設に備蓄協力を依頼している。	消防署員の指導で年2回火災等の通報装置の扱い方や消火器の使い方、職員1人について利用者1人を連れた避難訓練を実施している。また職員は津波・地震・火事を想定した地域の防災訓練にも参加している。なお災害に備え隣接の協力関係にある老人保健施設に毛布、食料、水などの備蓄を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言動等については職員会議やミーティング等機会ある度確認し再認識するようにつとめている。家庭的な雰囲気であっても一人ひとりの人格を尊重した対応をするように心掛けている。	職員は利用者の人格を尊重し、プライドを傷つけないよう注意しており、また、そのような言動は見かけなかった。利用者の個人情報には漏れないように注意し事務室に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常時希望や自己決定ができるよう本人に働きかけ、意思表示のしやすい雰囲気や環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常はできる限り一人ひとりの希望やペースに添って過ごせるよう支援しているも、グループ生活であるため、ある程度協調して頂くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カットを利用して理美容に気をつけたり、外出や行事等の際にはその人らしい身だしなみができているか一人ひとり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に利用者の希望を取り入れたメニューを利用者と職員で、準備から調理、盛り付け、片づけまで行うようにしている。節分に巻きずしをつくったり、年末のもちつきに、もちを丸めたりして楽しんでいる。	職員と利用者で会をつくり何を食べたいか好みを把握するようにしている。食事は塩分が少なく、刻みを小さくして食べやすいようにする等工夫している。また、節分の巻き寿司作りや、年末の餅つき等毎月1回程度行っている行事食には、出来る利用者は準備や調理、盛り付け、後片づけなどを手伝っており、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分補給量の管理表を作成して、一人ひとりに応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをしている。出来る人には自己にて、できない人には介助にて実施している。また義歯の洗浄や保管の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄するよう援助し、オムツ類の減少に繋がるよう取り組んでいる。また繰り返し説明し、一人でトイレができるよう自立に向けた支援にも取り組んでいる。	一人ひとりの排泄の記録をとって利用者それぞれの排泄パターンを把握し、声かけをしてトイレへ誘導するよう支援している。オムツの使用を出来るだけ少なくし、トイレで自立した排泄が出来るように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し水分補給や牛乳、ヨーグルト等の摂取をしたり、また医師や訪問看護の指示のもと、便薬調整の支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくり時間をかけて入浴したい人や希望日のある人もあり、入浴チェック表でチェックはしているものの出来る限り本人の希望に添った支援をしている。	日曜以外に毎日午後入浴できるようにしている。利用者によりゆっくり入浴したい人には日曜日に入浴してもらったり、入浴する日を指定する人や2、3人で一緒に入浴を希望する人もいる等、出来るだけ希望に沿えるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、安心して休息や安眠ができるよう、雰囲気や環境に配慮した支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を把握し、服薬支援と症状変化の観察、確認、報告に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、食器拭き、洗濯干し、畳み等積極的に手伝ってくれる人がいる、またカラオケなど興味のあるリクリエーションに自ら参加して歌ったり、個々に、張り合いや楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の公園への花見や海岸線やハーブ園等へのドライブ、外食、喫茶店へのおやつ外食などに利用者が出かけることを支援している。また墓参りなどに家族が連れて行くこともある。	利用者は地域の行事への参加のほか近くの公園への花見や、加太やハーブ園などへのドライブ、外食などに職員が支援して出かけている。また墓参りに家族が連れて行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとり預り金という形で、出納帳を付け事務所にて預かっている。買い物時や外食時、本人の希望があれば、支払ってもらうよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から電話を掛けたいとの訴えあれば対応し、掛かってきた場合は取り次ぐなり、代わりに聞いて伝える等の支援をしている。手紙のやり取りは一部の方を除いて無理な方が多い。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には花を植えたり、居間、廊下には手作りの季節の飾り物などして、季節感、生活感を出している。また畳敷きのコーナーや玄関前のベンチなど、居心地良く過ごせるよう工夫している。	廊下は広々としており、台所や食堂の共同室には行事の写真を貼り、テレビの音量や室温も適当と感じられた。また、クリスマスの飾りを室内に吊るし季節感を出したり、和室も設けられ利用者が居心地よく感じられるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったもの同士は近くに座り会話をたのしんでいる。また玄関前のベンチも良い居場所になっている。独りになりたい時は各自、自室で過ごして居る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や思い出の物を持ち込んでいる。家族の写真やタンス、仏壇、楽器など置き、落ち着いて暮らしている。	居室の扉はガラス戸で和室風の引き戸になっており、室内は人にもよるが、好みのぬいぐるみを置いたり家族の写真を飾ったり、また永年使い慣れた楽器を置いたりして、本人にとって居心地よく暮らせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内は、環境や慣れで、トイレや居室も理解できている。館内での生活ができるだけ自立できるよう、安全な環境づくりに努めている。		